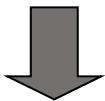


令和7年度 富士河口湖町総合教育会議資料

富士河口湖町立教育センター
所長 渡邊 敏

1 はじめに

- ※富士河口湖町立教育センター
- 平成17年(2005年)に開設
- 目的：研修、研究、開発及び啓発を行い、教育振興、児童・生徒の健全な育成に寄与する。
- 設置条例第3条を基本に、8項目の事業を展開



- 平成27年度(2015年度)
 - ・富士河口湖町中央公民館1階に移転
 - ・今年度、11年目を迎えた



2 教育センター設置条例における事業について

第3条 教育センターは、次に掲げる事業を行う

- (1) 教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること
- (2) 教育関係職員の研修に関すること
- (3) 教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること
- (4) 教育相談に関すること
- (5) 前各号に掲げるもののほか富士河口湖町教育委員会が必要と認める事項



具体的に9項目の取り組みを行っている

- ①教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること

***理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成**（基本的には4年に一度改定）

令和7年度は社会科副読本の改訂作業の1年目

- ・企画委員会の開催（代表7名）
- ・編集委員会（各校一人）
- ・専門機関との連携（富士山科学研究所、町生涯学習課文化財担当、世界遺産センター、河口湖フィールドセンター等）

***富士山学習の充実**（富士山科学研究所、富士山世界遺産センター等との連携）

- ・「河口湖新倉掘抜学習」
- ・「防災教育プログラム化」

***新学習指導要領に向けての調査研究**

- ・「小学校外国語」「社会に開かれた教育課程」の実現のための支援

②学習開発に関すること

*地域を生かした体験活動（センターのプログラム）

- ・「木工の学習」：図工3・4年生（西湖野鳥の森公園）（12回）
- ・「役場見学」：社会科3年生（学校教育課を中心に各課と連携）（6回）
- ・「河口湖新倉掘抜」：社会科4年生（生涯学習課文化財担当）（11回）

③教職員の研修に関すること

*町単・期採・代替職員等の研修会（3回）

*支援員対象研修会（1回）

*新転入・新採用教職員等の郷土学習会（夏季休業中：町内施設の見学・学習会）

*スキルアップ講座

- ・外国語研修会（1回）

- ・ICT研修会（教職員への研修10回）

④教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること。

*教育センターだよりの発行（月1回）

*各小中学校の年間計画・教育課程・学校要覧・防災計画等の収集、整理

⑤必要な研究組織の設置と運営に関すること。

*運営協議会（教育センターの運営について、年に2回検討を行う）

*富士山学習研究員会（5回）

- ・各学校より1名の協力者を得て、企画運営を行う。

- ・富士山学習の充実に向けての組織的研究

*特別支援教育研究会（特別支援コーディネーターの連携と研修）（2回）

*外国語教育研究会（1回）

- ・小学校外国語科・外国語活動、英語教育の小中連携についての研究

⑥教育相談に関すること。

*令和6年度の相談件数：973件（令和7年度10月現在639件）

- ・町SSW、総合教育相談員等との連携

- ・学校と連携したケース会議の実施

- ・保護者面談の実施

⑦幼保、小、中、高、大・関係機関等との連携に関すること。

*保小中連携協議会の開催

*各保育所への訪問（情報交換）

*町SSW、総合教育相談員との連携

⑧代替派遣に関すること

*代替職員の授業派遣：令和6年度：要請139回、派遣80回

令和7年10月まで 要請75件、派遣40件

⑨その他目的達成に必要なこと。 *不審者対策

- ・青色灯パトロールカーの巡回時間帯、コース等各学校とりまとめ（町地域防災課との連携）

3 具体的な取り組み（特に力を入れている取組・連携等）

（1）相談業務（教育相談）

① 2024年（令和6年度）の状況について

不登校関係	846件	発達相談	2件
友人関係	4件	性格・行動	1件
学習相談	1件	問題行動	3件
先生との関係	4件	心と身体相談	1件
進路相談	1件	家庭相談	5件
卒業生等	95件		

合計：973件

② 2025年（令和7年4月～10月まで）の状況について

不登校関係	557件	性格・行動	1件
進路相談	18件	卒業生等	63件

合計：639件

③ 10月現在の実績：16名が利用

（小1年：1名 小3年：1名 小4年：3名 小5年：1名 小6年：1名
中1年：2名 中2年：1名 中3年：6名）

※学校と相談を密にして対応していく。（子供を中心に据えて考えていく）

※あくまでも、イニシアチブ（主導権）は学校にある。

教育センターは、相談・支援が役目（学校と家庭をつないでいる。）

※専門機関との連携（町総合教育相談員、SSW、町子育て支援課等）

※ケース会議（支援会議）への参加（必要に応じて）

※保護者相談（子どもの状況、進路等、情報共有、同じベクトルで支援）

（2）富士山学習（防災教育）の充実 ~専門機関との連携について~

① 町立教育センター研究員会（富士山学習研究会）

防災に関する研究授業の実施（河口小学校）

② 中学校区引き渡し訓練への協力

③ ジュニア防災士講座への協力

①町教育センター研究員会（富士山学習研究会）について（研究員は各校1名：12名）

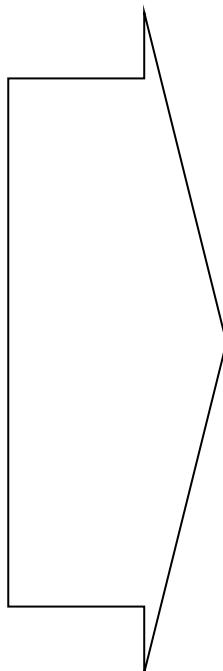
※研究のテーマ

・世界文化遺産である「富士山」を児童生徒に伝えていくための授業実践をどう進めるか

◎富士山学習研究会ではこの6年間、防災教育に力を入れて研究を進めている

令和2年度 ●西浜小防災授業（自然災害・火山噴火） ●防災教育3年間の計画立案	令和3年度 ●勝山小親子防災授業	令和4年度 ●土砂災害の防災授業（町内5小学校） ●防災教育の教育課程への位置づけ ●富士山と防災に関するアンケート実施 ●勝山小親子防災授業 ◇町内の引き渡しマニュアル統一（町教頭会） ◇ジュニア防災士講座（町地域防災課）	令和5年度 ●溶岩流についての防災授業（小立小） ●溶岩流実験のできる教員の育成と育成のための指導資料作成 ●勝山小親子防災授業 ◇勝山中学校区引き渡し訓練 ◇湖北中学校区引き渡し訓練 ◇勝山中防災教育ワークショップ（富士山研） ◇ジュニア防災士講座
---	---------------------	--	--

令和6年度 ①溶岩流についての防災授業（小立小） ②溶岩流実験のできる教員の育成とより実践に近い指導資料の作成 ③勝山小親子防災授業 ◇勝山中学校区引き渡し訓練 ◇湖北中学校区引き渡し訓練 ◇防災クロスロードの実施（勝山中） ◇ジュニア防災士講座	令和7年度 ①溶岩流についての防災授業（河口小） ②溶岩流実験のできる教員の育成とより実践に近い指導資料の作成 ◇勝山中学校・湖北中学校区合同引き渡し訓練 ◇湖南中学校区引き渡し訓練 ◇防災クロスロードの実施（勝山中） ◇ジュニア防災士講座
--	--



①溶岩流についての防災授業（河口小）



担任は専門家と連携して授業を進める



実験を通して学ぶ

③ジュニア防災士講座への協力について

小学生 66 名が参加



自然災害についての講義



溶岩を溶かす実験



自衛隊基本動作体験



体験喫食



天幕設営体験



救急車乗車体験



消防車設備



振り返りまとめ

(3) 幼保小中連携の充実

①富士河口湖町保小中連携協議会の開催。事務局：教育センター

保・小・中連携推進事業の実施について

【趣旨】

保育所・こども園・幼稚園の保育士、小学校及び中学校の教員等が、保・小・中間の「段差」を理解し、子どもたちの個別的・発達等を考慮しながら、それぞれの立場で子どもの付けた力や育ち・学びの連続性について相互理解を深め、「小・中学校教育への連続を円滑にすることにより、いりかわる「小1プロブレム」・「中1ギャップ」・「小4ビハインド」・「高1クラシス」」を未然に防止し、子どもたちの学校生活の充実を図る。

小1プロブレム

小学校に入学したばかりの小学生が、授業中に座っていられない、教師の話を聞かないなど、集団行動がとれず「小学校生活へ適応できない」とみなされる状態。背景として、保育・幼児教育と小学校教育における生活リズム、環境、学習方法、評価の違いなど子どもが戸惑っているなどの要因が考えられる。

中1ギャップ

小学生から中学生になり、中学校での学習や生活に適応できずに中學1年時に学力の底下や不登校の急増などの教育課題が顕著に現れる現象。

小4ビハイン

小学校4年生までの学習事項をしっかりと身につけていないと、高学年の授業内容の理解が難しくなる現象。

高1クラシス

高等学年進学後、学習や生活面での大きな環境変化に適応できず、生徒が不登校に陥ったり、進学したりする現象。

校種間の接続の問題
集団生活への適応に関わる問題
発達の段階に応じた育ちや学び

保・小・中連携教育の推進の必要性

学習指導要領における取り組い

保育所保育指針（平成29年3月）第4章（2）イ

「保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教員との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。」

幼稚園教育要領（平成29年3月）第3章5（2）

「幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。」

小学校学習指導要領（平成29年3月）第1章総則第5の2（イ）抜粋
他の小学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図る。

※国語、音楽、図画工作において幼児教育での学びを意識して指導する
※第1学年入学当初においては、生活科を中心とした合科的な指導を行う

中学校学習指導要領（平成29年3月）第1章総則第5の2（イ）抜粋
他の中学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図る。

高等学校学習指導要領（平成29年3月）第1章総則第6教の2（イ）抜粋
他の高等学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校及び大学などとの間の連携や交流を図る。

■保・小・中連携って、何ですか？

乳幼児期、小中学校の教育は、乳幼児期の家庭での一人一人の育ちを受けて保育所・子ども園・幼稚園の保育・幼児教育がスタートし、さらに、その成果を受けて、小中学校教育が始まるという、一連の流れの中で行われます。「保・小・中連携」は、この一人ひとりの子どもの発達や学びのつながりを理解し合い、長い目で子どもの育ちを伸びがいを見ようとする取り組みのことです。

■具体的には、どんなことをすればいいのですか？

- 行事や園内活動、授業へ児童と小学生が相互に参加し合い、一緒に活動する。
- 保育参観や授業参観を相互に行う等、教師・保育者合同研修会を開催する。
- 保・小・中・PTA合同の講演会や学習会を開催する。
- 施設の開放等により継続的に連携・交流する。

等の取り組みがあります。

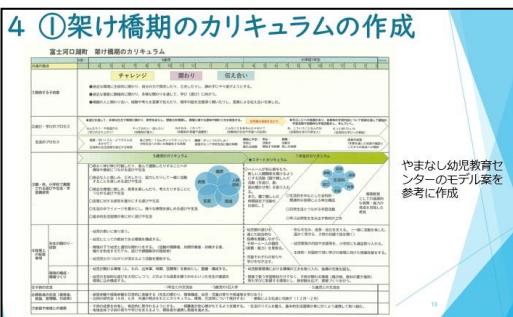
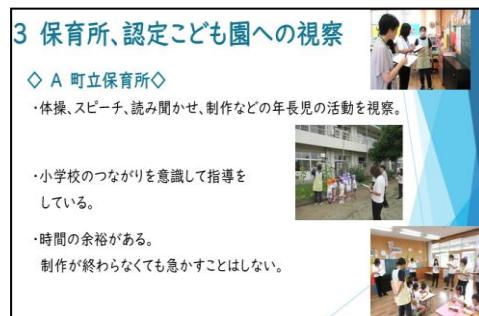
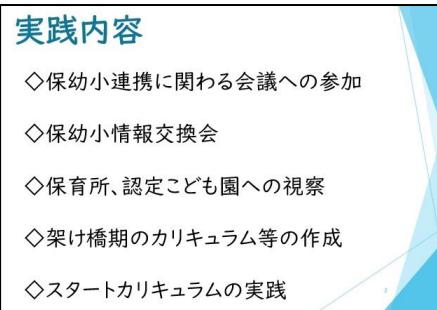
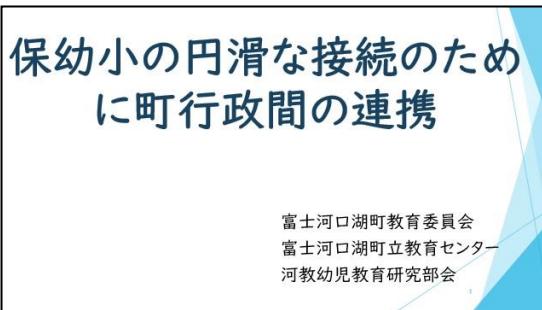
★保・小・中連携を進めるにあたっては、趣旨を理解し、それぞれの段階で、実情に即したことから取り組みをはじめましょう。

★本町では、町全体で連携を推進している。特に教育的支援を必要とする児童・生徒の望ましい学びや生活の在り方を実現するには、縦・横の連携を図る中で、富士河口湖町を担う子どもたちの健やかな育成をめざして、取り組んでいきましょう。

中学校区ごとに担当者会議を開催し連携を図っている。

②河教幼年教育研究部会と保育所の連携

- ・保幼小情報交換会の実施（6月19日(木)）
- ・保育所の視察(8月7日(木))
- ・幼保小連携接続研修会で町の実践発表（8月8日(金)）
- ・架け橋プログラムの実践と改善(町内で統一したプログラムを目指す)



(4) 情報教育研修の充実

1. 目的

町内小中学生が ICT 活用能力を継続的、系統的に習得できるようにするために、町内小中学校に勤務する教職員に ICT に関する研修の機会を計画的に設ける。

2. タブレット端末研修計画

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R 4 年度			スタートアップ研修【2時間】 12/27(火)1/10(火)			R 5 年度			コア研修前半 【3時間】7/28(金)8/23(水)		
			管理職研修 【40分】 ・校長会 1/16(月) ・教頭会 12/15(木)						スタートアップ研修 【2時間】8/16(水)		
R 5 年度			コア研修後半 【3時間】 12/27(水) 1/9(金)			R 6 年度			ミライシード研修 【2時間】8/10(木)		
									OPE 研修 【2時間】8/22(火)		
R 6 年度			コア研修後半 【3時間】12/26(木)			R 7 年度			コアプラス研修 【3時間】8/9(金)8/20(火)		
			コアプラス研修 【3時間】1/7(火)						スタートアップ研修 【2時間】8/7(水)		
			FigJam 研修 【3時間】12/26(木)						コア研修前半 【3時間】8/19(月)		
			Canva 研修 【3時間】1/7(火)						FigJam 研修 【3時間】8/7(水)		
			ミライシード研修 【2時間】12/26(木)						Canva 研修 【3時間】8/19(月)		

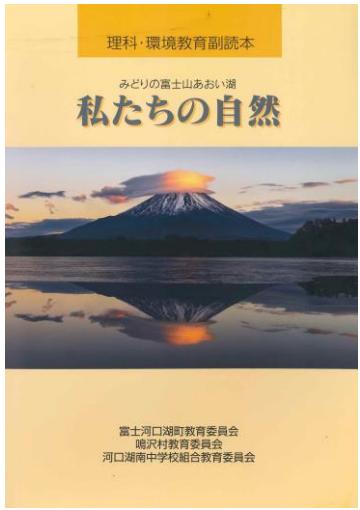
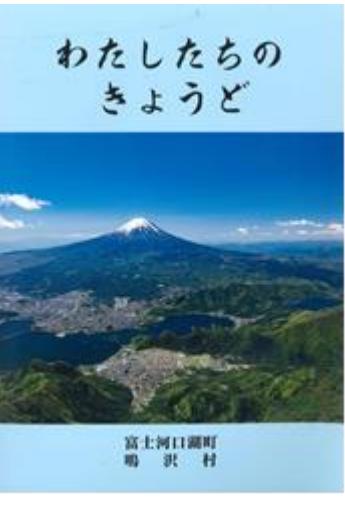
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R7年度					コア研修後半 【3時間】1/6(火)	R8年度					

3. 研修実績（令和4年～令和7年8月まで）

- スタートアップ研修受講者 123名
- コア研修受講者 383名
- コアプラス研修受講者 119名
- ミライシード研修受講者 68名
- OPE研修受講者 17名
- 管理職研修受講者 28名
- Canva研修 105名
- FigJam研修 13名
- 学びポケット研修 27名

○延べ受講者数 883名

(5) 理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成

理科・環境副読本	社会科副読本
 発行部数 1063部	 発行部数 1332部

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年～中学校3年で使用 ・令和6年度未改訂版発行 ・令和7年度～令和10年度分の児童数の冊子をまとめて作成 ・PDF版を町HP上で公開 ・令和9年度～令和10年度改訂作業予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校3～4年社会科で使用 ・令和4年3月改訂版発行 ・令和5年度～令和8年度分の児童数の冊子をまとめて作成 ・PDF版を町HP上で公開 ・令和7年度～令和8年度改訂作業
---	--

4 おわりに

平成17年に開設された教育センターは、平成27年度に中央公民館へと移転し、町役場の他の部署及び他機関との連携を密にできるため、業務を充実させることができる。今年度も学力充実や新しい教育課題に対応するため、9項目の事業を展開している。

学校の多忙化を避けつつ必要な業務を行うために、既存の組織や事業との連携を積極的に進めている。先に挙げた富士山学習研究会、保小連携、情報教育研修等は、事業に参加する関係者がそれぞれの役割を果たすことで、負担軽減を考慮しながら成果をあげることができた。教育センターのコーディネート的役割は事業を推進させる上で重要である。

一方、これまで継続してきた事業の充実に加え、今日的な課題への対応としての新たな事業や町教委からの要請による業務等が加わり、教育センターが担う事業は多岐にわたっている。教育センター自身の業務の精選と再構築も大きな課題である。

今後も、教育センターとして何を行うことが児童・生徒にとって必要かを大前提とし、富士河口湖町の教育課題や学校のニーズに応えた事業を行い、現場に生かす教育センターを目指し取り組みたい。